

1 北海道国際理解教育研究協議会の研究(第11次研究の1年目)

研究主題

「グローバル社会を生き抜く行動力を身に付けた児童生徒の育成」

2 胆振国際理解教育研究会の研究

(1) 研究副主題について

「広く世界に目をひらき，思いをつなぎつむぐ学びを求めて」

広く世界に 目をひらく

北海道国際理解研究教育研究会の第11次研究の主題を受け、胆振の現状を考えてみた。今の社会は、国際社会からグローバル社会へとその形態を変化させている。地球規模での問題が山積し、その解決に向けてグローバル社会の一員として国境を越えて様々な人とつながることが大切である。胆振では、留学生との国際交流を行っているが地域人材活用だけでは限定された国以外を知ることが難しい。様々な国の人と関わる機会が少ない胆振の子どもがグローバル社会の一員であることを意識させるためには、まずは自ら「広く世界に目をひらき」、世界をよく知ることが大切だと考える。

思いを つなぎつむぐ

広く世界に目をひらくと、地球上にはたくさんの問題や課題があることに気付く。そして、これらの問題や課題についてもっと詳しく知りたい、何か自分にできることはないかという思いに発展させることが大切である。世界を知り感じた思いを、人との関わりの中で深めたり、他者に伝え広げたり（つなぎ）協働したりしながら、それぞれの思いの良さを取り入れよりよい方法で解決しようとする（紡ぐ）ことがグローバル社会を生き抜く行動力と考える。

本会は研究主題に迫る副主題を「広く世界に目をひらき，思いをつなぎつむぐ学びを求めて」と設定した。人とのつながりを通して「思い」を伝え広げ、問題を解決しようとする学びを追究し、研究主題に迫りたい。

(2) 研究仮説

【仮説 1】

グローバル社会を意識して教材化することにより、子ども自身が世界の様々なことに興味や関心を持ち、地球が抱えている諸問題に気付くことができるだろう。

地球規模での環境問題や貧困問題など、人類の未来にかかわる問題など国境を越えた様々な世界を提示することにより、世界に興味関心を示し世界や地域の問題や課題を身近な問題として捉え、自分の思いや地域への思い、世界の思いへと広がりをもつことができる。

【仮説 2】

自分の思いや考えを伝え学ぶ場面を授業の中に位置付けていくことによって、課題に向かって行動することができるだろう。

学習で得た思いが膨らんだり、問題を解決したりする場面では、人との対話が必要になってくる。授業の中で対話場面を意図的に取り入れ、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の意見を受け入れながら自分の考えを深めたり広げたりして（つなぎつむいで）問題を解決していくことができる。

(3) 研究の視点

【視点 1】 グローバル社会の一員を意識する学習

- ①世界へと視野を広げる教材づくり
- ②地球社会の問題を身近な問題として捉える教材づくり

【視点 2】 対話を通して価値に迫る

- ①自分の思いを伝えたり、相手の意見を聞いたりする場面を取り入れた学習活動
- ②問題解決を意識した単元の構成

(4) 研究の重点

【重点 1】 広く世界に目をひらくことに重点を置いた教材を活用する

- ①人材の活用
 - ・ JICA など
- ②資料の活用
 - ・ DVD ・ 写真 ・ 統計資料など

【重点 2】 自ら他者と関わり、発信できる学習を取り入れる

- ① 人材の活用
 - ・ JICA など
- ②対話の形態の工夫
 - ・ ディベート
 - ・ グループ討議
 - ・ プレゼンテーション
 - ・ ペア学習

(5) 胆振国際理解教育研究会 国際理解基本目標

① 平和を愛する心の育成

争いを好まず、思いやりと愛情を持って他人や他国を理解し、認めようとする平和を愛する心の育成。

② 人権意識の涵養

自分も他人も、自国においても他国に対しても、すべての人間の尊重、尊厳、平等を守ろうとする人権意識の育成。

③ 自国意識と国民的自覚の形成

我が国の文化や伝統を理解し尊重する自国意識の育成と自国を愛するなど日本国民としての自覚の育成

④ 異文化理解の増進、進化

他国・他民族・他文化への理解と意識を深め、自国を含めた世界の文化及び価値観の多様性に対する尊重・寛容の態度の育成。

⑤ 相互理解・相互交流

他人や他国を理解し認めようとする態度や広く国際的、地球的、人類的視野に立って、心のふれあいを豊かにしようとする交流意欲や態度の育成。

⑥ コミュニケーション能力・表現力の育成

世界の中の日本人として、世界の人々と意志疎通できる国際的なコミュニケーション能力や表現力の育成。

⑦ 個の確立と個性の尊重

自他の個性や特徴についての判断や理解ができる。主体的に生き、いかなる困難においても屈しないたくましい意志力、柔軟な発想、物事を主体的に見る視野の広さ、自他の医師を的確に把握できるこの確立と国際性の素地を養う。

⑧ 国際社会における連携と協力精神の育成

国際社会における我が国の地位・立場にふさわしい国際的責任を果たそうとする協力・協調への実践的意欲や連帯意識、態度の育成。

(6) 胆振国際理解教育研究会 目標の系統

道協議会	胆振国際理解教育研究会			
	基本目標	幼稚園	小学校1・2年生	小学校3・4年生
目指す子供の資質・能力	空間意識の発達 (視野の広がり)	身近な環境	学校・家庭・公園・校区	地域社会(市町村) 市域社会(都道府県)
	国際性の発達課題 (自他との関わり)	人間や自然に向けられる愛を育むこと。	人間理解(自立による自己理解)を育むこと。	人間理解(自己理解と他人理解)を育むこと。
人間として行動する力	②人権意識の涵養	・友達を大切にする。 ・友達と仲良く生活できる。	・友達と関わりを持って楽しく生活する。	・互いに信頼しあい、他人の立場を考えて温かく接する。
	⑦個の確立と個性の尊重	・たくさんの友達を作ることができる。	・自分と友達のよさを見つけることができる。	・自分と友達のよさを見つけ、互いに認め合うことができる。
異文化理解	③自国認識と国民的自覚の形成	・地域の行事や季節の伝統的な行事に参加することができる。	・具体的な活動や体験を通して、身近な文化や伝統と自分との関わりに気づくことができる。	・郷土の自然や歴史、文化等について関心を持つことができる。
	④異文化理解の増進深化	・生活の中で様々なものに触れ、気づいたり楽しんだりできる。	・身近な文化の違いに気づくことができる	・自他の文化へ関心を持ち、理解することができる。
	⑤相互理解・相互交流	・身近な人と積極的に関わり、仲良く遊ぶ楽しさを味わうことができる。	・身近にいる人と進んで仲良くしたくさんの友達と仲良くすることができる。	・自他の違いを理解し、進んで助け合い、協力し合って活動できる。
コミュニケーション能力	⑥コミュニケーション能力、表現力の育成	・自分の気持ちを言葉で表現できる。	・自分の思いをいろいろな方法で表現し、伝えることができる。	・友達の考えを聞き、取り入れながら自分の考えや思いを分かりやすく伝え、表現することができる。
共生の心	①平和を愛する心の育成	・命あるものに優しく接しようとする。	・友達と仲良くしようとする。	・学級などの集団において、他との関わりを大切にしようとする。
	⑤相互理解・相互交流	・身近な人と積極的に関わり、仲良く遊ぶ楽しさを味わうことができる。	・身近にいる人と進んで仲良くしたくさんの友達と仲良くすることができる。	・自他の違いを理解し、進んで助け合い、協力し合って活動できる。
	⑧国際社会における連携と協力精神の育成	・自分にできることは自分ですることができる。	・学級や家庭の中で役割を持つことができる。	・身の回りの問題に関心を持ち、解決しようとする努力することができる。

胆振国際理解教育研究会

小学校5・6年生	中学校	高等学校
日本（産業、国土） 日本（歴史、政治、国際社会での役割）	日本・世界（国土や歴史、政治、経済、国際社会での役割）	日本・世界（国土や歴史、政治経済を広い視野から見る。国際社会での役割）
自国文化の良き理解者、継承者を育むこと。	他国文化の良き理解者を育むこと。	国際協調に必要な具体的な行動ができる態度を養う。
・公正、公平なものの見方で相手を尊重し思いやることができる。	人々の生き方に触れ、人間として共感を持つことができる。	偏見や差別意識を除去し、人権尊重の立場から物事を考えることができる。
自分を見つめ、他人を思いやりながら、自分のよさを発揮し、自信を持って活動できる。	人間性の多様な価値に気づき、自他の個性や特徴について判断、理解できる。	自己の効力性について自覚を持ち、個性や能力を発揮できる。
・自国の文化や伝統、産業などに関心を持ち、その背景や仕組みを理解しようと務めることができる。	日本人としてのものの見方や考え方を養い、国際社会で信頼されるような国民になるために努力することができる。	日本の制度や慣習を大切にするとともに、それぞれの国にアイデンティティがあることに気づくことができる。
・自他の文化への関心を広げ、理解を深めることができる。	自他の文化を理解し、尊重しようと努力することができる。	自国の文化を大切にし、自他の文化の多様性を理解し尊重することができる。
広い視野に立ち、様々な考えを受け入れながら協力し合い、活動できる。	外国人との接触や交流の経験を積極的に求めることができる。	外国人との交流を通してその文化、習慣、考え方などを理解することができる。
友達の思いや考えを比較しながら自分の思いや考えを的確に相手に伝え、表現できる。	他者の考えを理解し、場に応じた適切な表現で、積極的に交流を深めることができる。	他者の考え方を理解し、尊重しながら自分の考えを的確に表現し、意志を通い合わせることができる。
・自他のよさを認め、思いやりの心を持つ。	他者の存在を認め、信頼関係を築こうとする。	社会および人間との関わりを通して、質の高い生き方を目指そうとする。
広い視野に立ち、様々な考えを受け入れながら協力し合い、活動できる。	外国人との接触や交流の経験を積極的に求めることができる。	外国人との交流を通してその文化、習慣、考え方などを理解することができる。
自分の立場から周囲を見つめ、よりよい環境となるように積極的に協力できる。	互いに尊重し合いながら協力し合うことができる。 世界的諸問題を受け止め、具体的に行動できる。	自ら協力者として活動し、社会に貢献することができる。 世界的諸問題を受け止め、具体的に行動できる。

行動・行動化できる日本人

(7) 胆振国際理解教育研究会

研究の全体構想

